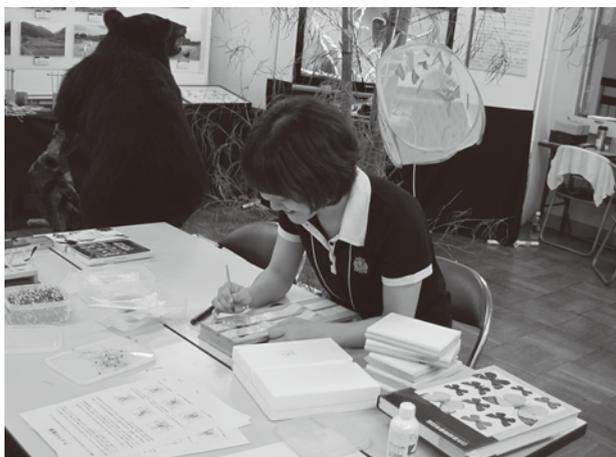


## 平成 25 年度 博物館実習



昆虫標本の作製方法を習う実習生

今年も静岡県自然学習資料センターでは、博物館実習を行いました。本年度は、7月に東海大学海洋学部の学生を8名、8月・9月に静岡大学の学生を8名、計16名を受け入れました。どの学生も、熱心に実習を行っていました。実習を行った静大の学生に感想をいただいたのでご紹介します。

### 理学部地球科学科3年 伊藤真実

今回の実習では、展示の準備、標本作り、展示の受付、案内をお手伝いさせていただきました。その中で、一番印象に残っているのは、アブラコウモリとアズマヒキガエルを標本にしたことです。自分の手で生物の体にメスを入れ、体の中を見ることで、生物の仕組みがよく分かりました。必要な部分が発達し、必要のない部分は退化した、無駄のない構造にとっても感動しました。

実習を通して、今までよりも生物や自然に対して興味を持つようになり、とても良い経験ができたと思います。

### 理学部生物科学科3年 中西正紀

生物科学科を専攻しているので、自分は生物に多く関わっているつもりでしたが、普段扱っているのは実験用のモデル生物が多いので、同じ要領で野生の動植物を説明することが出来ず、自分の力不足を感じました。実習では、解説する立場でしたが、特別展では知識を持った見学者に逆に教わることも多くありました。次の機



星砂の観察を体験する実習生

会があれば、実習生だからと甘えず、後悔しないように自分の全力で挑んでいきたいです。また、実習では自分の希望で標本作成をさせてもらい、貴重な体験が出来て非常に満足しました。

### 理学部地球科学科4年 掛谷勇介

今回の実習では、主に特別展の解説をやらせていただきました。中でも勉強になったのが、来館者の方とのコミュニケーションの取り方です。来館者の方々の質問に対して臨機応変に対応し、この展示で最も伝えたいことをきちっと伝えられる職員の方々に感心させられっぱなしでした。私も解説をしながら、より展示に興味を持ってもらえる話をするためには、展示自体の知識とは別に、その周辺の幅広い知識も必要になるということを実感しました。

### 理学部地球科学科3年 小長井 駿

五日間にわたる博物館実習では、学芸員の仕事内容や展示にストーリー性を持たせることの重要性を学ぶことが出来ました。学芸員の方々は、展示物の管理、来館者への説明等を行い、来館者によりわかりやすく、もっと興味を持ってもらう努力をしていました。自分もより多くの知識を吸収して、様々な人に説明できるようになりたいと感じました。

今回実習では、展示にストーリー性があると内容の理解のしやすさが向上し、読み手の好奇心をより刺激する事が出来ると学びました。